

夢はカタチを変えていく！

10月11日(土)10時15分～12時、令和7年度愛媛県高等学校PTA連合会「進路・家族フォーラム」に参加しました。福元哲郎(テツロ)先生の講演「大人が輝けば 子どもが輝く 子どもが輝けば 夢と未来が輝く」を聴くことができました。

先生の人生哲学とトライアスロンの競技経験に基づいた、心に響くメッセージが詰まった内容にとっても感動しました。はじめに、参加者全員で行った本気ジャンケンが会場全体を一つにして皆に元気を与えてくれました。

この講演は、「生きる力」夢の持ち方「人間力の育て方」といった、人生の本質に迫る内容でした。聴く人の心に火を灯すような、熱くて優しい時間となりました。

生徒の可能性を信じて周りの大人が使うべきベップトーク(Bepp Talk)も参考になりました。自分にとって一番キンピカなものを大切に、夢を叶える新しい自分になることを分かちやすく伝えていきたいと思っています。県外からお越しいただき、貴重な御講演をありがとうございました。



PTA研修Ⅱ 学び合う場

11月30日(日)丸亀うちわミュージアムに行きました。

生徒は、学校生活で育んだ友情や協力の心を、やがて地域へと広げていきます。PTAは、そんな子どもたちを支えるだけでなく、大人自身が学び、成長できる「社会教育活動」の場でもあります。

PTAの活動を通して、子どもも大人も共に学び合い、成長していけるそれがPTAの魅力です。学校行事への積極的な参加を通じて、学校をさらに身近に感じていただければ幸いです。

生徒の未来のために、力を合わせて共助ネットワークを築きましょう！皆様の御参加を心よりお待ちしております。



編集後記

子どものやる気はすごい力を発揮しますね！今年も頑張っている小松高生のお手伝いや応援ができて楽しかったです！☆

近藤 貴子

皆さんに座右の銘はありますか？私は「障子を開けてみよ。外は広いぞ。」(豊田 佐吉)です。私もPTAと言う障子を開いて、色々な世界を見せていただきました。本当に勉強になりました。

卒業される皆さんも臆する事なく色々な事に挑戦してください。必ず自分の為になりますよ。そして皆さんの「座右の銘」を見つけてください。三年間、ありがとうございました！

十亀 博行

体育大会や小松高祭などのPTA活動を通して、子どもたちの成長をそばで感じる事ができ、とても嬉しく心に残る時間でした。

これからも子どもたちを見守り応援していきたいと思っています。一年間ありがとうございました。

森澤 香緒理



発行所 小松高等学校
編集 PTA文教委
責任 総務厚生課



校章の由来
松に囲まれた小松高校を抽象化した松の絵に小松の「小」と「高」を配した。

積微力行



今年度のPTA活動を振り返って

PTA会長 吉實 勇治



日頃よりPTA活動に対して、保護者の皆様方には、多大なるご理解とご協力をお願い申し上げます。今年度のPTA活動は、「かけがえのない十八年分の一年を未来へ」という活動目標のもと、生徒一人ひとりの成長と学びを支えることを根底に取り組んでまいりました。高校生活の一年は、十八年の中のほんの一部かもしれませんが、その一年は進路選択や人間関係、価値観の形成など、将来に大きな影響を与える極めて重要な時間です。その「かけがえのない一年」を、より良いものとして未来へつなげていくために、学校・家庭・地域が協力し合うことの大切さをPTA活動を通して改めて実感した一年でもありました。

PTAの活動の一つである竹林整備につきましては、本来は年三回の実施を予定しておりましたが、天候や日程調整等の事情により、残念ながら最初の一回のみ実施となりました。十分な活動が行えなかったことは心残りではありますが、限られた機会の中でも、多くの保護者の皆様にご参加いただき、学校環境の整備に取り組むことができた。参加された皆様のご協力とご理解に、改めて感謝申し上げます。

また、九月に開催された体育大会では、生徒たちがクラスや団ごとに力を合わせ、最後まで全力で競技に取り組む姿が大変印象的でした。勝敗に一喜一憂しながらも、仲間を思いやり、応援し合う姿は、まさに高校生らしい輝きに満ちており、保護者としても胸を打たれる場面が数多くありました。続く十月の小松高祭では、各クラスが工夫を凝らした展示や発表を行い、生徒たちの創造力や表現力が存分に発揮されました。うどんやチュロス等のパザールも準備期間から当日に至るまで、先生方たちが主体的に取り組む姿を見る事ができ、学校行事の持つ教育的意義の大きさを改めて感じました。これらの行事が無事に実施できたのも、先生方の日々のご尽力と、保護者の皆様の温かいご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

今年度を通して感じたことは、PTA活動は決して特別な人だけが担うものではなく、「できる人」が、何より大切である形で関わる事が、何より大切であるということです。多様な立場や生活環境の中で、無理なく関わる事が、結果として継続的で実りあるPTA活動につながるべくと考えております。高校の統廃合により、少しずつ学校が変化していきますが、来年度以降も「かけがえのない十八年分の一年を未来へ」という思いを大切にしながら、生徒たちの「今」と「その先を支えていくPTA」であって欲しいと願っております。そのためにも、保護者の皆様、そして先生方には、引き続き温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、今年度のPTA活動を支えてくださったすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げますとともに、本校生徒一人ひとりの健やかな成長と明るい未来を心より祈念し、挨拶とさせていただきます。

永遠なのか本当かの流れは続くのか

校長 村井 浩昭



現小松高校として三学年が揃う最後の年の「小松高祭」は、一般公開としたというPTAからの要望がありました。本来ならば三年に一度の一般公開なので来年度に当たるところですが、昨年度のうちに学校全体に諮り、今年度は一般公開として実施することになりました。

吉實勇治会長には、三年間にわたり会長として尽力いただきましたが、お子様の御卒業とともにその任を終えられることとなります。心からありがとうございます。私自身も、還暦を迎え役職定年となります。三年生同様「最後の」という言葉が切ないイメージとなり年度末に近づくにしたがって胸に迫るものとなっています。

「最後の記念にバンドしますか。」という一言をきっかけに、吉實会長と少年のように胸を躍らせながら、話はとんとん拍子にまとまっていきました。バンドをするにはリズムを正確に刻んでくれるドラムが欠かせません。まるで前からそこに用意されていた場所に、自然と収まるかのように、原田誠也理事の登場です。他にも参加したいと言われる方もおりましたが、日程が合わず今回は陰ながら応援をお願いすることとなりました。会長のギターはフエンダーのテレキャスター、少し古びた標準的な色合いの奥に、長い時間を吸い込んだような重厚な艶を醸えています。私はベースを担当しました。実は、八月に東京で行われた養正会関東支部総会の帰り、御茶ノ水で手に入れた養正会長のサブライズの間の中でしたが、最後は生徒会長のサブライズ出演もあり、世代を越えた一体感の中で、忘れたい時間を過ごすことができました。

十一月の終わりには、PTA研修旅行が実施されました。PTAと教職員総勢約二十名での香川方面への日帰りバスツアーです。天候にも恵まれ、ぽかぽか陽気の中気持ちのよい旅となりました。最初に訪れたのは丸亀うちわミュージアムです。丸亀うちは、国内シェア九割、年間約一億本以上の生産量を誇り、形の多様さとともに日本一とされています。平成九年には国の伝統的工芸品にも指定されました。私たちは、用意された竹の骨組みに紙を貼る体験を行い、糊が乾く間、職人の方が竹から骨組みを作る様子を見学しました。その後は、四月に行われた社会見学で、三年生が訪れたレオマでの昼食、駆け足で巡る琴弾公園、新宮霧の森と行程が続きしました。大人だけのバスの旅は、生徒や子どもを気にすることなく、のびのびと楽しめる、どこか懐かしい憩いの時間だったように思います。

現小松高校としての歩みは、四月から新小松高校との共同活動へとつながっていきます。永遠だと思っていたものが永遠でなくなる、そんな感覚でしょうか。しかし、学校の形は変わっても、PTAと教職員が力を合わせ、子どもたちを支えていくという関係は、これまでと何一つ変わらぬ、変えてはならない永遠のものだと思います。同じ校地で学ぶ生徒たちは、学年や学校の枠を越えて、これからも仲間としてつながっていくはずで。

学校を創っていくのは、建物や制度ではなく、そこに集う人の思いとつながりなのだ、今年一年のさまざまな場面を通して改めて感じました。これまでと同じように、新しい学校も温かく盛り上げてほしいと願っています。生徒たちは、それぞれの舞台で力を尽くし、時の流れの中に確かな一歩一歩を刻みながら成長しています。これからも、学校・家庭・地域が手く時間を、一人一人の夢や可能性が確実に育っていく時間、ともに見守っていければ幸いです。今後とも、変わらぬ御理解と御支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



10月31日(金)、天候が心配された小松高祭を開催することができました。お陰様で生徒会スローガン「輝笑転結」笑顔が絶えない青春をくーに見合うよう全校生徒355名で一致団結した成果を披露することができました。雨の中、御来校いただいた皆様、PTAバザーに出展していただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

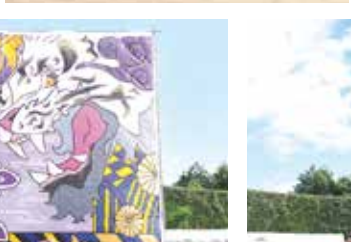
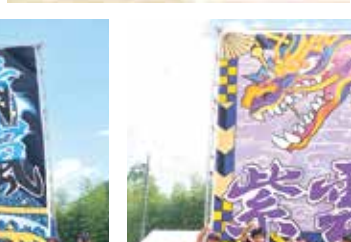
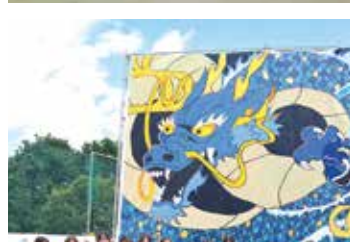
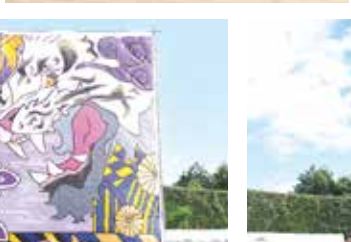
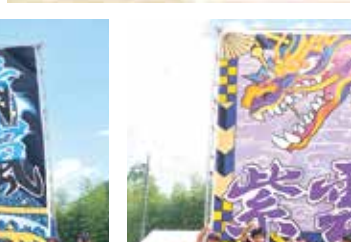
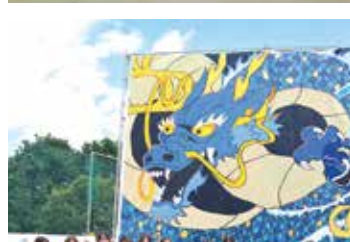
一般公開 小松高祭



体育大会

9月8日(月)、晴天の下、3年生を中心に団結して、体育大会が実施できました。おかげさまで思い出と記憶に残る学校行事となりました。皆様、応援ありがとうございました。

総合優勝 青嵐
応援優勝 紅炎
装飾優勝 青嵐



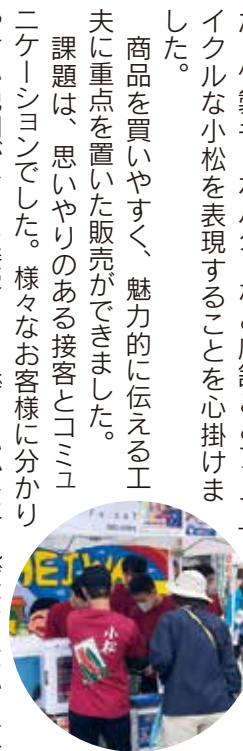
第18回全国「商い甲子園」大会に参加して



商い甲子園で学んだことを地元の「YEGフェス2025」や「小松文化祭販売」につなげることができました。思うように行かない時こそ諦めず挨拶(名刺配布)や店舗の模様替えなど工夫を凝らした正直な販売を心掛けたいと思いました。



このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。



商品を買いたく、魅力的に伝える工夫に重点を置いて販売ができました。課題は、思いやりのある接客とコミュニケーションでした。様々なお客様に分かりやすい説明ができる接客力も上げていかなければならないと反省しました。大会テーマである「あきない未来へ」に沿い限られた時間の中で貴重な販売体験をすることができました。9時30分から開会式のため、出展準備が大変忙しく苦労しました。3時間の時間を最大限に使って、商品を売り上げることができました。

全国「商い甲子園」実行委員会から10月3日に出場決定の通知を受けて、出場できなかったチームの分まで頑張ろうと準備に取り掛かりました。スカツと炭酸ソーダ、よしの餅、竹ホルダーなど土・日・祝日の大半をかけて臨むことができました。



商い甲子園大会には、前日から高知県安芸市に宿泊をし、POP講座などを受講して大会に臨みました。



11月12日(水)、秋の曇空の下、学校から石鎚神社までの往復約6.5kmを歩くウォークラリー大会を行いました。道中では色鮮やかな紅葉が参加者を迎え、自然の美しさを満喫しながらの散策となりました。歩く速さはそれぞれ自由で、友達と語らいながら進むグループ、写真を撮りながら紅葉を楽しむグループなど、思い思いのペースで秋のひとときを過ごしました。折り返しの石鎚神社では、昼食をとりながら、達成感に包まれた笑顔があふれ、心身ともにリフレッシュできる時間となりました。今回のウォークラリーは、自然に親しみながら仲間との絆を深める貴重な機会となりました。生徒の楽しそうな様子から秋の魅力を十分に感じてもらったと思います。



11月12日(水)、秋の曇空の下、学校から石鎚神社までの往復約6.5kmを歩くウォークラリー大会を行いました。道中では色鮮やかな紅葉が参加者を迎え、自然の美しさを満喫しながらの散策となりました。歩く速さはそれぞれ自由で、友達と語らいながら進むグループ、写真を撮りながら紅葉を楽しむグループなど、思い思いのペースで秋のひとときを過ごしました。折り返しの石鎚神社では、昼食をとりながら、達成感に包まれた笑顔があふれ、心身ともにリフレッシュできる時間となりました。今回のウォークラリーは、自然に親しみながら仲間との絆を深める貴重な機会となりました。生徒の楽しそうな様子から秋の魅力を十分に感じてもらったと思います。



ウォークラリー大会を開催しました！

